



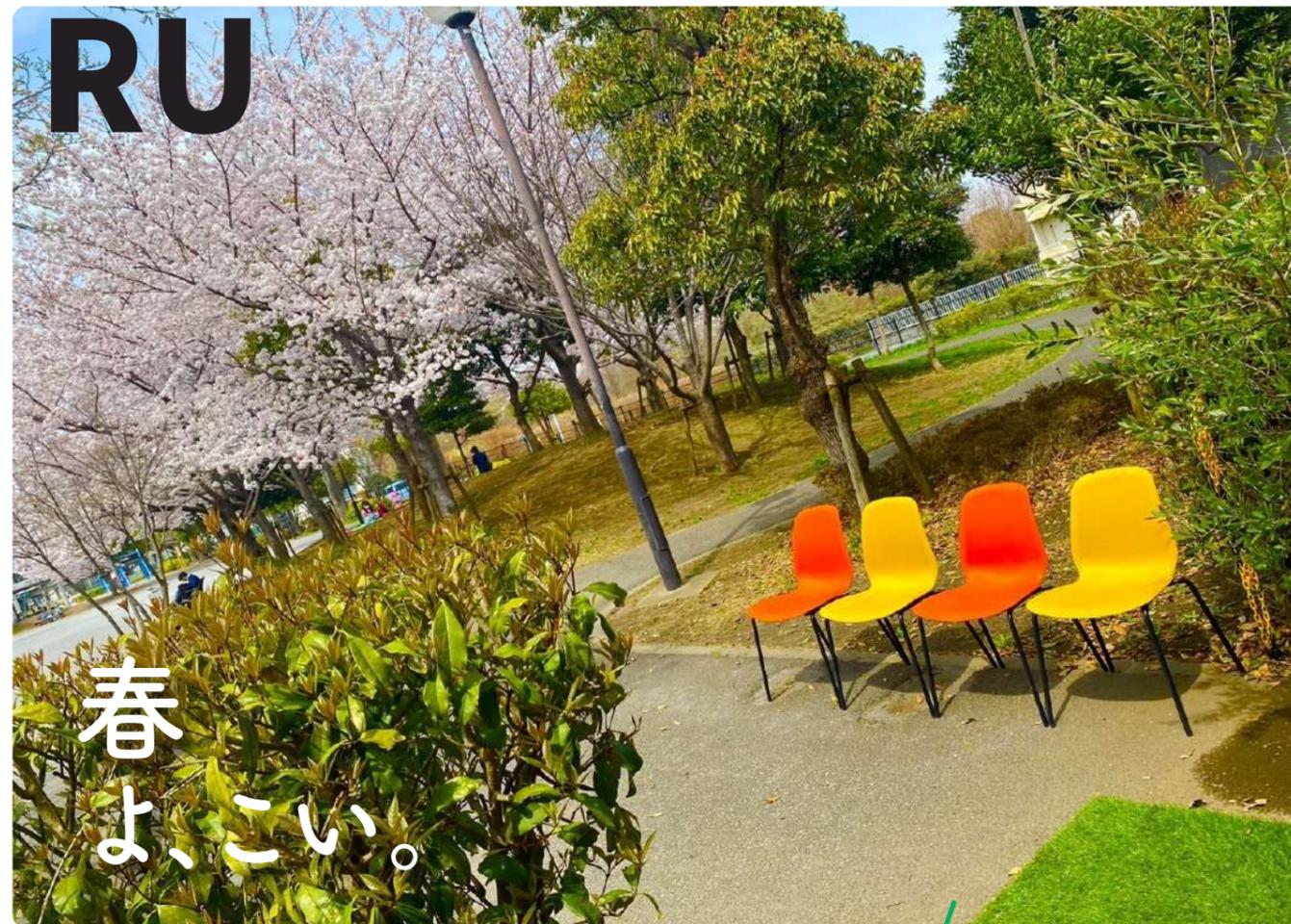
NPO法人さいたまユースサポートネット  
<https://saitamayouthnet.org/>

# TSU NA GA RU

一人の子どもや若者も取り残さない社会をつくる  
さいたまユースマガジン

4 / 001  
2022

- つながる -



春よ、こい。

特集

2021年を振り返って  
新事業「ほりたま」スタート

NPO法人さいたまユースサポートネット  
[saitamayouth](https://saitamayouth.net)

2022年度に向けて

## 〈ローカル・コモنزの形成を〉

# 地域の共有財＝ソーシャル・キャピタル を積み上げていく



私たちは、2021年秋、さいたま市見沼区堀崎で地域の自治会や社会福祉協議会、民生委員（児童委員）さんなど住民の自治組織、企業、NPOなど民間団体との協働で「堀崎プロジェクト」と名付けた活動をはじめました。経済的困窮などが原因で孤立した子ども・若者たちに対し、学習、文化・芸術、スポーツ、旅行、仲間づくりなどの様々な体験の支援を行うことを目的としています。毎週土曜日、堀崎のさいたまコースの本部にあるアリーナやスタジオで小学生年代から20才代までを対象として、地域の方々との共働で「交流」と「コミュニティの形成」をめざした活動です。そこでは、社会の多様性を尊重し、困窮世帯だけでなく、外国人世帯の子ども・若者、その家族が社会から取り残されないように、日本語学習や交流会などもはじめました。

コロナの感染で他者に対する怖れが広まり、地域のコミュニティ活動も縮小し、ひきこもりや不登校の子ども・若者は増え続け、子どもや若者たちの自殺者も急増しました。

国や自治体による「公助」の縮小が懸念される日本社会で、住民組織と地域の支え合いの担い手を育てようとする専門的な力があるNPOなどの協働が必要になっています。

持続的な活動にするためには活動をコミュニティの共有財「ローカル・コモنز」にしなければならないのです。私たちの団体が携わる活動は一方的な「委託・受託」関係ではなく、地域の財産であるソーシャルキャピタルをさらに積み上げようとするものです。コロナ後の時代であろうと、私たちは「ローカル・コモنز」の創出をめざし、孤立した家族、子ども・若者たちを支えます。

NPO法人さいたまコースサポートネット

代表 青砥 恭



## 事業拡大が進んでいます 私たちの事業

さいたま市を拠点に、様々な困難により居場所がなく将来への不安を抱えた子ども・若者たちへの支援活動を展開しています。



居場所づくり  
子ども第三の居場所  
あそぼっくすほりさき



自立支援  
就労支援事業  
はたチカ応援プログラム



地域づくり  
レンタルスペース  
COMMONS PLACE HORISAKI



地域づくり  
Commons Cafe



居場所づくり  
居場所  
堀崎こもんずたまり場



居場所づくり  
子ども第三の居場所  
あそぼっくすみぬま



スポーツ  
ユースの  
サッカークラブ



学習支援  
さいたま市／川越市の  
学習支援委託事業



自立支援  
さいたま市（桜木・南浦和）  
若者自立支援ルーム



仲間づくり  
居場所  
たまり場



仲間づくり  
上尾市子ども若者自立支援事業  
ルームここから



## 2021年を振り返って

たくさんのご支援、ご協力のおかげで  
さまざまな活動を行うことができました。



### 1月 新しいさいたまユースへの一步

2020年12月さいたま市見沼区堀崎町に建屋を取得。『あそぼっくすみぬま設立準備室』を設置して業務を開始致しました。  
2021年1月に全機能の移転が完了。本格的に新本部にて活動を開始しました。



### あそぼっくすみぬま開所

2月

日本財団の助成を受けて『あそぼっくすみぬま』が開所。清水勇人さいたま市長、日本財団笹川陽平会長他、地域の多くの方のご臨席を得て、2月に開所式が行われました。  
現在、様々な課題を抱えたご家庭の子どもたち16名が在籍。子どもたちは毎日元気に通っています。また、多くのマスコミの取材や見学者が来られて注目をあつめています。



### 6月 はたチカ応援プログラム始動

若者就労支援事業の、『はたチカ応援プログラム』を開始。様々な課題を抱えた若者の相談を受けるとともに、多彩なプログラムを開催して、若者が社会に巣立つ支援をしています。地域の関係機関との連携も強く、現在30名ほどの若者が登録し、相談に訪れています。



### 地域とのつながり「マルシェ」開催

7月

6月、7月とマルシェを開催。地域の農家の方々にご協力いただいて、野菜販売、多文化・多世代の外国人を支援している『てんきりん』のプログラム、『いろいろな国の遊びや言葉めぐり』など、地域の方々のご協力を得て開催しています。



## 10月 多くの事業を展開して、子ども・若者支援を複合的に

地域とともに生きるために、「課題を抱えた子ども・若者たち」を支援する堀崎プロジェクトを始めました。日本財団の助成を得て本部建屋を改修。清水勇人さいたま市長、日本財団笹川順平常務理事など、多くの地域の企業や団体の方々のご臨席を得て、オープンセレモニーが行われました。放課後、子どもたちが安心して過ごせる場、『あそぼっくすほりさき』、地域の方々が集う場『Commons Cafe』と地域の方々の学ぶ場を開放する『COMMONS PLACE HORISAKI』を整備してスタートしました。



## ホームページもリニューアル!

私たちの活動を随時発信していきます。  
Facebook・TwitterなどSNSも更新中。



### 委員会での意見交換

1月

堀崎プロジェクト第1回評価委員会を実施しました。一橋大学、立教大学、埼玉大学、文教大学、ベネッセ等外部の研究者に参加していただき、プロジェクトを進めるにあたり検討すべき事項、活動の目標などについて意見交換を行いました。定期的に委員会を開催して、外部の方々の意見を聞きながらプロジェクトを進めていきます。



### 2月 新事業開始

『居場所堀崎こもんずたまり場』がスタートしました。『居場所堀崎こもんずたまり場』、略して『ほりたま』。「誰でも参加できる」をモットーに、年齢や国籍・所属に関係なく様々な人が一緒に遊んだり、教えあったり、イベントを考えたりする居場所です。通常の居場所活動以外に、季節のイベントや体験活動、遠足等のイベントを行っていきます。



### 年度末、ありがとう

3月

さいたま市学習支援教室の修了式が行われました。コロナの中でオンラインを活用しながらみんな1年間頑張りました。4月からまた新しい年度がスタートします。



Commons Cafeなどの収益は全額子ども・若者支援に使わせていただきます。来年も従来活動に加え、これらの活動を充実して絶えることがない、子ども・若者支援をして参ります。

## 特集

# 新事業「ほりたま」スタート!

仲間づくりと体験と交流を



## 「ほりたま」毎週土曜日の活動紹介

「ほりたま」は2月19日に見学・説明会を実施し、翌週2月26日から体験と交流活動をスタートしました。

「誰でも参加」をモットーに、子どもから20代の若者が国籍、所属に関係なく様々な人が一緒に交流したり学習したりする場所です。

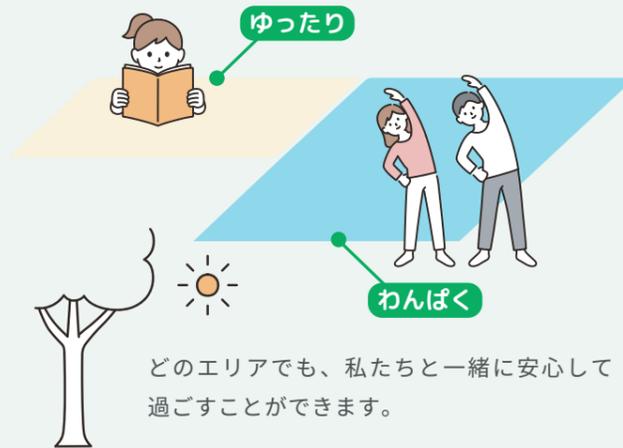
- ★ 体験プログラムに参加したり、自分のペースで過ごしたりと1人ひとりの「やりたい」を一緒に実現していきます◎
- ★ ほりたまの中での活動以外にも、地域にでかける活動や、農作業体験などを計画中です!
- ★ 晋平太（しんぺいた）氏のラップ沖縄音楽を楽しむ活動やバスケット・サッカーなどスポーツなども準備しています。

## ゆったりエリア

静かに過ごしたり、のんびり遊べるスペース。お絵描きや塗り絵、ボードゲームもあります。その日、自分が一番過ごしたいスタイルを選びましょう。最近のほりたまで人気の遊びは、1000ピースパズル! みんなで協力して制作していましたが、なかなか時間内には終わらず...次週に持ち越しました。

## わんぱくエリア

身体を動かしてたっぷり遊べるスペース。卓球やバトミントン、みんなでワイワイ過ごせます。スタッフやボランティアのお兄さんお姉さんと、思いっきり身体を動かしましょう! 最近は常設している卓球が人気! ボールを出してくれるマシンもあります。未経験者も大歓迎、初めてでも楽しく打ち込めます。



どのエリアでも、私たちと一緒に安心して過ごすことができます。



## 居場所堀崎こもんずたまり場

地域社会でわくわくする経験をして、新しい発見をしよう! を目標に、交流したり学習したりする場所です。

- 活動場所 さいたま市見沼区堀崎町12-39 活動時間 毎週土曜日13:30~16:30  
お問い合わせ 090-1688-0584



地域とつながる、あなたとつながる。



## 第1回

食空間創造企業  
関東食糧株式会社

さまに、  
インタビューさせて  
いただきました!

## 浦和北ロータリークラブでの活動での出会い

さいたまユースサポートネットとのお付き合いの始まりは、浦和北ロータリークラブでの活動でした。浦和北ロータリークラブの職業奉仕や社会活動の一環の取り組みでした。「上尾高校の定時制の子たちに職業体験の機会を作ってもらえないか」と依頼を受けたのがお付き合いの始まりだったと思います。

## 関東食糧の社会貢献とは、食を通して地域に貢献していくこと

地元根ざしてやっていく、食を通して地元に対してどういことができるかという角度から関わりを持たせていただいています。地元の桶川市とは、万が一大きな地震が起きた時、食料物資の支援の連携協定を結んでいます。埼玉県の子ども食堂ネットワークと連携して、子ども食堂に食品の提供も行っています。また、フードパントリーの支援として、弊社が持っている倉庫の空きスペースをフードバンク用の倉庫として使っていただいています。食という幅が広いですが、弊社は外食産業向けにある程度特化して関わっている企業です。今では関東一円にまたがりサービスの提供をさせて頂いておりますが、特に埼玉県を中心としたエリア戦略、地域に根ざした地元の企業だと思っております。

地元の飲食店様とはパイプをたくさん持っていますので、良い意味で巻き込んで地域の活性化に繋がっています。地域に様々な団体があるので、一緒になって地域活性化につなげていく取り組みを食の面から一緒に関わっていきたくと考えております。コロナ下で大変苦労されている生産者を応援していくことで地元の生産者を元気づけたい。農業の活性化に貢献していければと取り組んでいます。地産地消と言われていますが、『弊社がやらなければ、どこがやるのか』と力を入れています。地元の農家の支援、生産地から近いところで消費する。地元の食材を使った料理の提案などを、積極的にやっていこうと思っています。

## さいたまユースサポートネットを通じて知ったこと

地域活性化といっても日の当たらない部分もあり、知られていないことが沢山あります。さいたまユースサポートネットとの付き合いで知ったこともたくさんあります。そのようなことも地域の方々に知ってもらい、弊社だけでは取り組めないことを一緒になって連携してやっていけば、大きな力になると思います。

## さいたまユースサポートネットに期待すること

青砥代表をはじめ、職員の方々が色々なことにチャレンジされています。今までに撒いてきた種が実になってきたかと思えます。そういった取り組みを地域の人にドンドン知ってほしいという思いがあります。それには広報活動が必要です。地域の方々に知っていただくことで、子どもたちを地域全体で支えていく文化ができて来れば良いと思います。

関東食糧がどのように関わっていけるか。『さいたまユースサポートネット』から弊社に「こんなことを出来ないか」「こんな事困っているけど解決策はあるか」と言っていただければ、今後も我々ができる限りの支援をしていきたいと思えます。

取締役 専務執行役員  
白岩 智 様

